

「利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成 25 年 2 月 24 日（日）11:40～11:55

さいたま新都心合同庁舎検査棟 7F

発言者：公述人 2

私は東京の文京区に住んでおります。私は利根川も江戸川も近くなくて、年に何回か散歩する程度です。利根川の洪水は私の家までは来そうにありませんが、私が荒川や利根川の水を飲ませていただいているということは、私の体の一部ではないかと思っております。だれかが排出した水が川を下って浄水場を通り、私が飲んで、排出して、また誰かの体に入っていくたり、何かを冷やしたり温めたり、海へいったり、空へ昇って雨になったりしているのだと思っております。ですので、家ではなるべく汚れた水を流さないように気をつけたり、川のことを考えたりしています。また、利根川・江戸川河川整備計画に盛り込まれている八ッ場ダム建設予定地の吾妻溪谷が破壊されることなく、すっきり保存されることを私は願っておりますので、興味を持ってこの河川整備計画を読ませていただきました。はじめに、河川整備計画の前にこの原案と関係がありますので、昨年から開かれている有識者会議を傍聴しての感想を述べたいと思います。私は有識者会議の途中でこの原案が出たことに、とても違和感を感じました。議論の途中で、予告なく議論を反映していないものを出すくらいなら、最初に出してはじめてこういうのがあるのですが意見を下さい、というほうが感じがいいし、案を決めるための会議なのですから、ひと通り終わってから意見を反映して、このようになりましたがいかがですか、というのが普通だと思います。会議では国土交通省が、洪水時に対応しなくてはいけない水の量を多く見積もりすぎている。過去のカスリーン台風の被害についての資料も、溢れるはずのないところが溢れている。国交省が使っている貯留関数法や総合確率法は不確かなものではないか、という議論が中心であったと思いますけれども、それに対する答えは全くなく、一方的に前と同じような原案を出してきたこと、またその前後に連続 9 回も委員会の開催を大した理由も示さずにキャンセルしてきたこと、傍聴者からしても非常に不誠実な対応と受け取りました。また、委員会の最中に国土交通省の方が何度となく繰り返された、自分たちは自分たちが聴きたい意見だけ聴くんだ。それ以外の有識者の意見は聴き捨てても有識者には関係ないことだ、それらは当然なのだ、というもの凄い開き直りの発言に驚きました。これではあらかじめ八ッ場ダム推進を答えが決まっていて、そのために開かれているようなものです。ダム推進派と思われる学者らも覇気がなく、自信もなく、間違っているとははっきり言えない。これはそのように決まっているのだ。なぜそうなるかまだ解明されていないが、結果はおおむね正しいと聞いている、という答えでした。それなのに意見は出つくしたので、というわけのわからない理由で、座長と国交省によって全体的には間違いの可能性が拭いきれないまま、国土交通省の持ってきた案のほうへまとめられてしまうように見えました。根拠も責任もないところで会議を進めていましたので、私はますます悲しくなりました。先日、21 日の会議でも貯留関数法が物理学的におかしいのではないかという意見があり、この場に他の先生を参考人として呼んで意見を聞いてみようという提案がある委員からありましたが、別の委員からは自分は専門外だから難しい話を聞いてもわからない。あなたたちでやってくれという意見がありました。そして国土交通省の方も自分たちの聴きたい意見ではないから呼ばないと言いました。民間であるならば重要な物事を決めるときは逆の考えを持っている人、批判的に言ってくれる人に意見を求めます。そのようにして間違いの可能性を潰し、少しでも良い方向にしようと思います。利根川・江戸川の

河川整備計画は最終的には国土交通省が権限を持っているのですから、自分たちの考えに対して叩いて下さい、間違いを見つけてください、というのが有識者から意見を聴く場に臨む態度であると思います。それなのにまるでただお墨付きを得る場としてしか考えておらず、お墨付きが得られなくてもただ聴き捨てればいい。おそらく、きょうもこの、これから3日間続く公聴会も、パブリックコメントも、同じように考えておられるのではないのでしょうか。このような議論で吾妻溪谷を潰されてしまうのでしょうか。流域住民の命と財産は守られるのでしょうか。八ッ場ダム建設については関連する各都県で反対する議員連盟が立ち上がったたり、また、住民訴訟が起きているのもご存じのことと思いますが、それらで争われている内容を考慮せずに埼玉や東京の人の水のためなんて嘘ごと、きれいごとをならべて私たち住民に責任転嫁されてはなりません。他のことやスーパー堤防についても同じようなことが起きていると聞いています。せつかなので中身にも触れたいと思います。3、4ページ目の自然環境、ここから始まることは重要だと思います。生息している動物には数が少なくなっている生き物、絶滅危惧種として指定されているものもいるようです。川や河原の生き物は生きる環境が非常に限られているため、河川改修などによって姿を消しつつあるのではないかと思います。29ページや30ページにも動植物が減少している区間がある。烏川、神流川では河原の固有の動植物も多く生息しているけれども、近年みお筋の固定化や、洪水による攪乱が少なくなったため、固有の動植物は減少してきているといえます。人間に都合のいいようにしてしまうと他の生き物には大きなダメージであることがあるのだと思います。先日、「流れ」という映画を見ました。神奈川県の中津川で環境保全の活動をしている2人の男性を追った映画ですが、河川整備によって生き物が少なくなったこと、ダムの人工的な放流によって川の生き物が対応できずに流されてしまうことが描かれていました。川の生き物の気持ちになれる映画だと思いますので、国交省の皆さんもぜひご覧ください。利根川でもこれからの河川整備によって固有の生き物が更に少なくならないように生き物が生きることが出来る環境が保全されるようにしてもらいたいと思います。それから、八ッ場ダム、南摩ダムの予定地の自然が書かれていないのはどうしてかなと思いました。他のダム周辺の生き物は書いてあります。八ッ場では現に水没させられようとしている地にカモシカ、イノシシ、熊など出会いました。鳥も沢山います。彼らはダム建設によって住処を奪われるのですから、この計画書に書いておくべきではないのでしょうか。他のところも川以外の生き物は書いていません。山に雨が降るところから川がはじまるのですから、周辺の生き物も大事にしてほしいと思います。4ページ目に東京の人口はものすごく増えているとあります。これからも東京にどんどん高いビルを建てて、もっと人口は増えるのでしょうか。いくらでも人口増加に合わせて水を獲得するのではなく、限界値を決める方がよくはないのでしょうか。16ページの取水制限でも思ったのですが、普段からある程度の取水制限をしていたらどうでしょうか。いつでも使いすぎないということによって、渇水の対策となるのではないのでしょうか。おかげさまで、普段私は水に困ることはありません。渇水対策には、八ッ場ダムで新たな水源を獲得するというのではなくて、普段からの節水や水の譲り合いによって解決できないのでしょうか。戸倉ダムをやめた理由が埼玉や東京で水需要が低迷していることと聞いています。東京では昨年の夏の渇水でも小河内ダムの水はまだたくさんあったそうですね。そのようなときは東京は利根川からの取る水の量を減らして、埼玉や千葉に譲ったらどうでしょうか。それから6ページに、治水の沿革で利根川東遷についてですが、ここには足尾銅山鉱毒事件により、江戸川に毒の水を流さないために水の流れを大きく変えたということが載っていません。利根川の歴史で重要な点であると思いますので、ぜひ載せてほしいです。過去の苦い歴史を繰り返さないために、公害はいつも思い起こすことが大事だと思います。それから、9ページ、10ページ、11ページには過去の水害が載っています。これを見れば特に吾妻溪谷に興味がない人でもやはり八ッ場ダムは必要なのかと疑問に思うの

ではないでしょうか。吾妻川上流で大雨が降ることはあまりなさそうなのではないでしょうか。それがその滅多に降らない大雨が80年に1度とか200年に1度とかそういう珍しい大雨にあたる確率がどのくらいなのでしょう。八ッ場ダムがあつてよかつたというほどの治水効果を発揮することは果たしてあるのか。仮にあるとしてその小さい確率に何千億円もつぎ込むことが妥当なのかどうか。そして逆にその小さい確率の時に八ッ場ダムで予定していたカット分より大きな雨が来てしまったらどうなのか、そう考えても、もう少しオールマイティに使える改修に、治水にお金を使った方がいいのではないかと思います。また、品木ダムですが、32ページに、水源地ビジョンというダムを生かした持続可能な取り組みとあります。ヒ素混じりの汚泥が沈殿し、その処分場の運営も不確かで廃棄物処理法違反の疑いがあり、公害問題に発展しかねない状況と聞いています。たまつた汚泥も処理しきれない、八ッ場ダムを造るために造つたのに、既にいっぱいになっているとも聞いています。水源地ビジョンという何か楽しそうなものの前に、そちらの問題から片付けるべきだと思いますし、このような状況で八ッ場ダムをほんとうに造ることが出来るのか、不安というか、まあ造らないでほしいんですけども、不思議に思います。この河川整備計画は八ッ場ダムを造るために策定しているのではなくて、国民にとってよりよい河川管理、事業運用をするために作られるべきだと私は思います。この河川整備計画の議論を思い出したかのように再開したのは、八ッ場ダムを造る条件に入れられたからなのかもしれませんが、ここで立ち止まって、一般の国民を、有識者の方々、また、市民団体からの批判、疑問に答えて、河川整備計画を、良いものを作り上げてほしいと思います。人間以外の生き物にも心を配り、利根川の上流や各支川にも心を配つた河川管理をしていただきたいと思います。以上です。ありがとうございます。

以上